

家庭で実践できる省エネ行動

CO₂の排出を抑えるためには、一人一人が出来ることから省エネ行動に取り組むことが重要です。以下のように、家電製品等の使用方法を見直すことで、CO₂の削減に加え、光熱費の削減も期待されます。

省エネ行動	CO ₂ 年間削減量	光熱費等の年間削減量
冷房時の室温は28℃を目安にする ※外気温31℃の時、エアコン（2.2kW）の冷房設定温度を27℃から28℃にした場合（使用時間：9時間/日）	14.8kg	1,060円 30.2kWh
エアコン（冷房）の使用時間を1日1時間減らす ※設定温度28℃の場合	9.2kg	660円 18.8kWh
テレビをつけている時間を1日1時間減らす ※液晶テレビ32V型の場合	8.2kg	590円 16.8kWh
パソコンを使う時間を1日1時間減らす		
デスクトップ	15.5kg	1,110円 31.6kWh
ノート	2.7kg	190円 5.5kWh
照明の使用時間を1日1時間減らす		
白熱電球	9.6kg	690円 19.7kWh
蛍光灯	2.2kg	150円 4.4kWh
LED電球	1.4kg	100円 2.9kWh
冷蔵庫は季節に合わせて設定温度を調節する ※周囲温度22℃で、冷蔵庫の設定温度を「強」から「中」にした場合	30.2kg	2,170円 61.7kWh

出典：東京都「2023 家庭の省エネハンドブック」、資源エネルギー庁「家庭の省エネ徹底ガイド 春夏秋冬」より作成

うちエコ診断

うちエコ診断とは、ご家庭の年間エネルギー使用量や光熱水費等の情報をもとに、専用のソフトを使って、お住まいの気候やご家庭のライフスタイルに合わせた省エネ、地球温暖化対策をご提案するものです。

うちエコ診断を行うことで、各家庭におけるCO₂の排出量やその内訳を把握し、ライフスタイルに応じたCO₂・光熱費の削減目標や対策方法を知ることができます。

診断は診断士による対面での実施を申し込むことができるほか、「簡単チェック ワンポイントアドバイストール」や「うちエコ診断 WEB サービス」等のWEB サービスを利用し、スマホやご自宅のパソコンでも簡易的に実施することができます。

うちエコ診断

自己診断用

あなたに合ったエコ対策を提案します
今を豊かに、未来を豊かに

▶ 自己診断をはじめる

5分でわかります
だいたいの電気代、ガス代、ガソリン代と、ご自宅での機器の使い方をおたずねします。

うちエコ診断では、平均的な家庭と比べながら、あなたの省エネのいいところ、これから光熱費を減らせることを、明らかにします。いっしょに、地球温暖化を防ぐ快適な生活を見つけましょう。

みんなの選択で年 802,328kg 削減中。

(c) 環境省 【バク報告】 自己診断用：他の人を診断できません

▲WEB サービスによる診断



▲診断士による対面での診断の申し込み

第三期
柏市地球温暖化対策計画

【改定版】概要版

令和6年8月発行

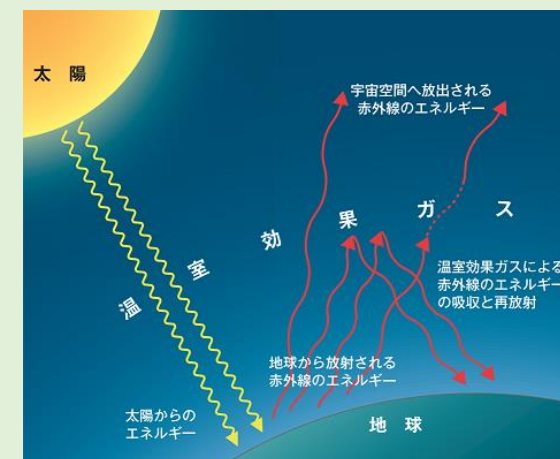
1

地球温暖化とは

地球温暖化の仕組み

太陽から降り注ぐ光は、地球の大気を通過し地表を温めています。

温められた熱の多くは、宇宙に放出されますが、一部、二酸化炭素（CO₂）、メタン、一酸化二窒素等の温室効果ガスと呼ばれる気体によって吸収されて地表へ戻されます。このことにより、地球は、生物の生存に適した気温に保たれてきました。もし、温室効果ガスがなければ地球の表面温度は氷点下19℃と考えられています。



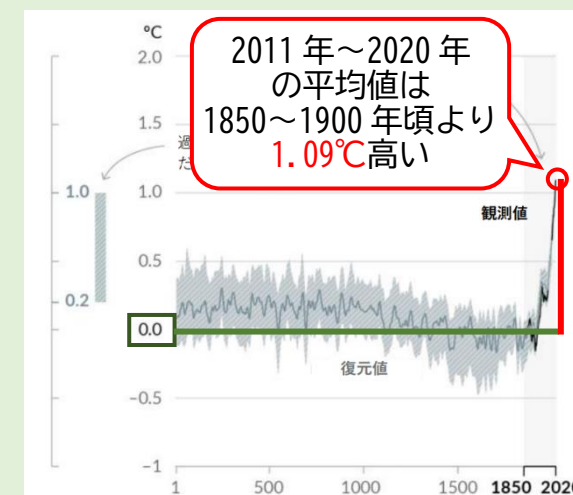
出典：環境省

地球温暖化の進行

世界全体の平均気温は、過去2000年間で前例のない速度で上昇し、2011年～2020年の世界平均気温が工業化以前の1850～1900年頃より約1.09℃高くなっており、地球温暖化が進行していることが気候変動に関する政府間パネル（IPCC）より報告されました。

また、この気温の上昇が人間の活動が原因であることに疑う余地がないことも初めて断定されました。

地球温暖化により観測された悪影響として、水不足や食糧生産量の低下、夏の暑さによる健康被害、洪水や暴風雨による損害、生態系の変化等が世界各国から報告されています。

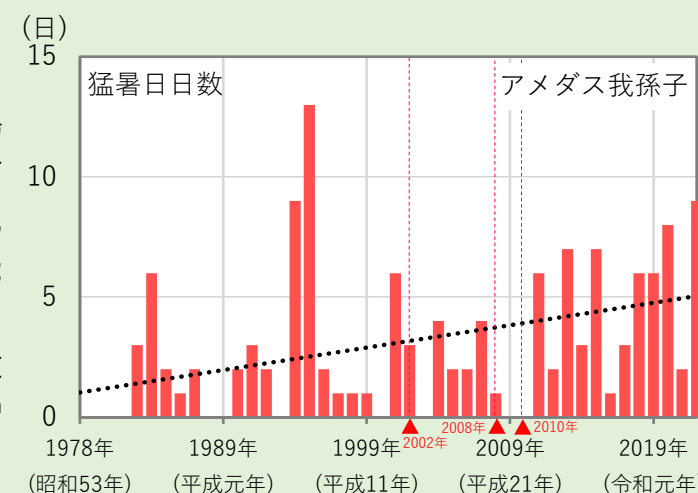


出典：IPCC第6次評価報告書 政策決定者向け要約（気象庁）より作成

地球温暖化の私達への影響

日本の平均気温は、地球温暖化対策が進まない場合に最大で約4.5℃上昇すると予測されており、激しい雨や強力な台風の増加、海面水温や水位の上昇、海洋酸性化によるサンゴ礁への悪影響等の様々な変化が起きる可能性があります。

現在、柏市では猛暑日（最高気温が35℃以上の日）日数や大雨の日数が増加傾向となっており、将来的には更に増加し、熱中症や気象災害等の発生リスクが上昇していくことが予測されています。



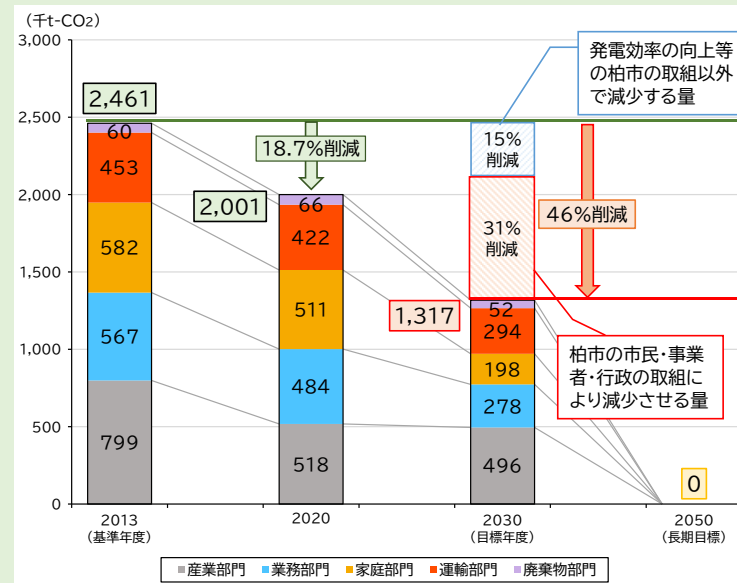
出典：気象庁のデータより作成

計画の目標

地球温暖化の原因となる温室効果ガス排出量は、柏市全体では減少傾向にあります。

しかし、地球温暖化の進行を食い止めるために、日本や世界各国の定めた温室効果ガス排出量の削減目標と比較すると、更なる削減が必要な状況となっています。

そこで、「2013 年度(平成 25 年度)比で 2030 年度(令和 12 年度)までに **46%削減**し、2050 年(令和 32 年)までに温室効果ガス排出量を**実質ゼロ**にする」ことを本計画の目標とし、様々な取組を実施していきます。



柏市の現状と課題

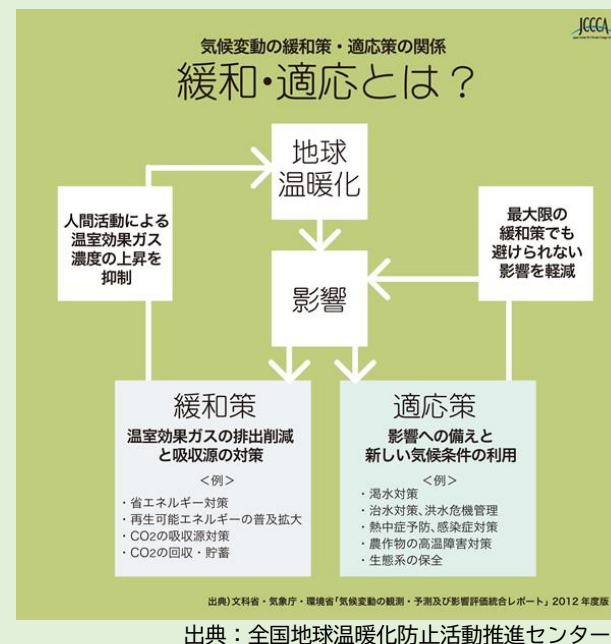
柏市の特徴や温室効果ガス排出量の推移から見て取れる柏市の現状と課題は、次のとおりです。

項目	現状と課題
温室効果ガス	市域全体の排出量は減少傾向にあるが、排出量の約 5 割を占める家庭部門と業務部門（第三次産業）の減少速度は他部門と比べて緩やかになっている。
再生可能エネルギー	太陽光発電設備の導入容量は増加傾向だが、太陽光発電設備以外のポテンシャルは小さい。
人口	人口増加は 2035 年頃まで進む予測のため、家庭部門や業務部門、廃棄物部門の活動量が増加し、排出される温室効果ガスが増える可能性がある。また、2035 年以降の人口は減少する予測で、少子高齢化も進行しているため、人口分布や土地利用等の都市構造が変化する可能性がある。
自然環境	自然や農地が全体の約 3 割を占め、手賀沼等の湖沼河川の自然が豊かであるが、宅地の面積が増加傾向で、田・畑・山林の面積は減少傾向にある。
産業構造	産業部門に該当する第一次・二次産業の従業者数が全体の 2 割に対して、業務部門に該当する第三次産業が全体の約 8 割を占めており、業務部門の排出量は、産業部門と比較し、温室効果ガスの減少速度が緩やかになっている。
気候	猛暑日や大雨の日数等は増加傾向にあり、気候の変化の兆候が見られる。

緩和策と適応策

緩和策とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量を削減する取組で、生活や経済活動の中で使用するエネルギーの消費量を抑える省エネルギー化、再生可能エネルギーの活用、森林等による CO₂ の吸収を増やす吸収源対策等が例に挙げられます。しかし、過去に排出された温室効果ガスの蓄積があるため、最大限に緩和策の取組を実践したとしても、ある程度の影響が今後発生することは避けられません。

そのため、大雨や猛暑等の異常気象が、これまでに観測されていない規模で発生し、私たちの生活に大きな影響を及ぼすことに対して備え、被害を軽減する適応策も併せて推進する必要があります。



柏市の施策の方向性

本計画では地域特性に合わせて、省エネや再エネの促進等の緩和策、防災や熱中症等の被害を軽減する適応策を推進します。また、既に取り組む実践している市民や事業者が活動を継続し、新たに多くの人々が取り組みたいと思えるようにするために、地球温暖化問題や温暖化対策に関する情報の周知や活動の連携強化を進める横断的な施策を推進します。

